

ウズベキスタン共和国の恐竜化石


<https://doi.org/10.24412/2181-1784-2022-22-190-191>

田中 康平 Tanaka Kohei

Ph.D. 筑波大学 生命環境系 地球進化科学専攻 助教

koheitanaka@geol.tsukuba.ac.jp

Otabek Anvarov

博士後期課程 筑波大学 生命環境科学研究科 地球進化科学専攻

otash_3107@bk.ru

中央アジアに位置するウズベキスタン共和国は、1世紀近く前から恐竜化石の研究が進められている。同国における主な恐竜化石産出地は中央部に位置する **Kyzylkum** 砂漠であり、主として後期白亜紀の地層が露出している。当該地域で 1914 年にロシア人研究者が恐竜化石を発見して以来、多様な分類群の脊椎動物化石が報告されている。特に、ロシア人古生物学者である Lev A. Nessonov らの調査により、1974 年から 1994 年にかけて **Dzharakuduk** 周辺で数多くの化石産出地や恐竜類を含む陸上脊椎動物化石が発見された。さらに、1997 年から 2006 年にかけては、**Kyzylkum** 砂漠において 5 か国（ウズベキスタン、ロシア、イギリス、アメリカ、カナダ）が参加した国際的な共同発掘プロジェクトが行われた。断片的な体骨格化石がほとんどではあるが、これまでに **Kyzylkum** 砂漠からは 15 種類の恐竜類化石（鳥盤類 5 種、竜脚形類 2 種類、非鳥類型獣脚類 8 種類）が確認されている。後期白亜紀前半頃、ウズベキスタンはアジア大陸の西端に位置していたため、これらの化石資料は当時の東アジアとヨーロッパの恐竜相をつなぐ役割を果たし、恐竜類の放散を検討する上で非常に重要である。

数多くの化石資料がウズベキスタンから報告されているが、これらの資料の多くは国外で保管されている。そのため、ウズベキスタン国内に所蔵されている化石資料は比較的少なく、また、研究も進んでいない。そこで、①ウズベキスタン国内に収蔵されている化石資料の調査を進めることと、②ウズベキスタンで新しい野外調査を行い、標本資料を増やしていくことを目的として、2020 年 3 月にウズベキスタン共和国国家地質鉱物資源委員会附属国家地質博物館（以下、国家地質博物館）と筑波大学生命環境系の間で国際交流協定を締結した。

この協定に基づき、国家地質博物館所蔵の獣脚類恐竜の左上顎骨を記載・分類した（図 1）。本標本は Lev A. Nessonov らが採集し、未記載のまま保管されていたが、本研究によって全長 7.5–8m ほどのカルカロドントサウルス類恐竜であることが判明した。後期白亜紀の中央アジアにおいて初のカルカロドントサウルス類の産出報告であり、ウズベキスタン最大の肉食恐竜の報告となった。カルカロドントサウルス類の地理的ギャップを埋めるだけでなく、獣脚類恐竜のニッチ競争を考える上で貴重な資料といえる。

さらに、2019 年には同国で予察的な野外調査を行った。これまで、ウズベキスタンの恐竜化石はそのほとんどが **Kyzylkum** 砂漠に限定されていた。新たな化石産地を探すため、同国東部に位置するフェルガナ盆地を対象とした。該当地域は前期白亜紀の陸成層及び海成層が露出しており、脊椎動物化石の産出が期待できる（図 1）。2019 年の調査では恐竜化石は見つからなかったものの、露頭が広範囲に及ぶことや様々な堆積層が含まれていることなどを確認した。今後さらなる調査が必要である。

図 1. 国家地質博物館に所蔵されているカルカロドントサウルス類恐竜の上顎骨化石と頭部の復元.

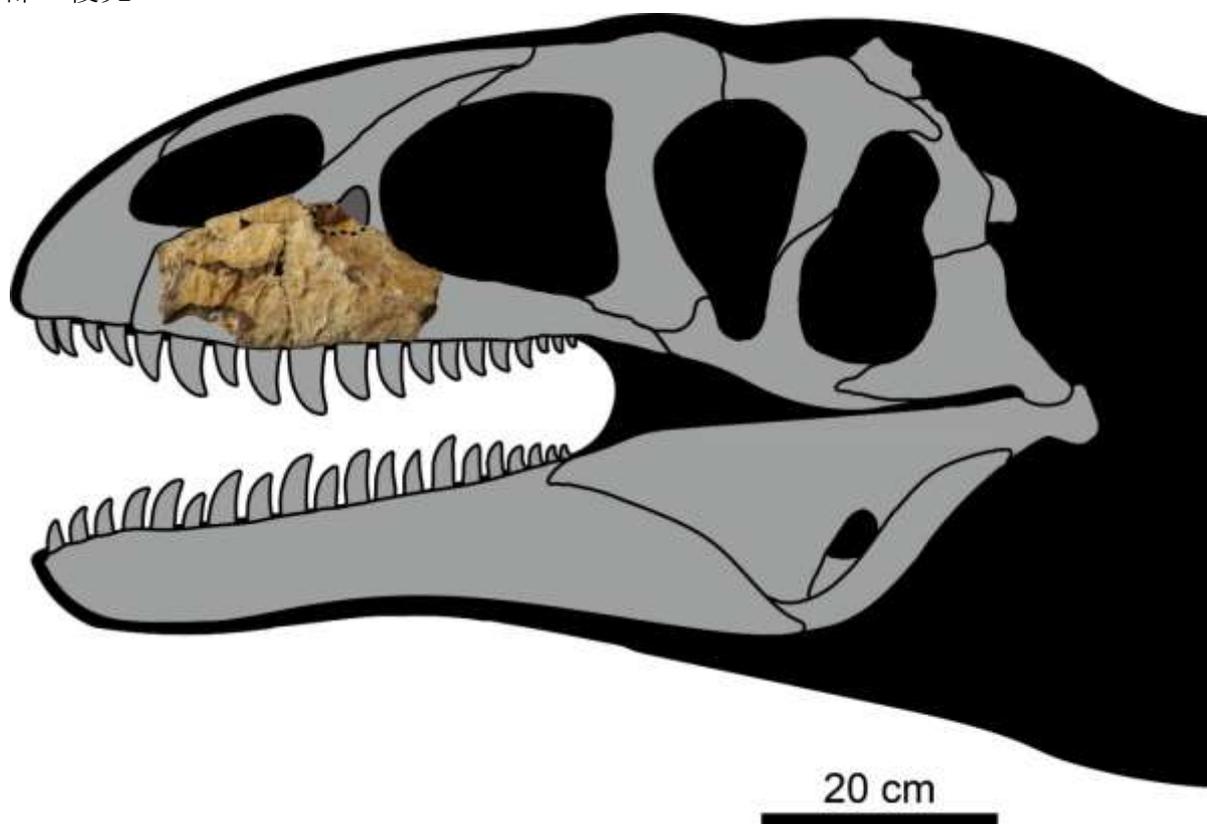


図 2. 前期白亜紀の地層が露出するフェルガナ盆地の露頭.

